

第5章 イスラーム組織アンサール・アッ=ディーンの指導者 イヤド・アグ・ガリ

茨木 透

はじめに

2012年1月にマリ共和国東北部で始まった第4次トゥアレグ抵抗運動は、そこにアラブ系やムーア系などのトゥアレグ人以外の人々を中心に構成されるイスラーム過激派の「イスラーム・マグリブ諸国のアル=カイダ(AQMI)」や「西アフリカ統一聖戦運動(MUJAO)」などが介入することで、非常に複雑な様相をみせている。さらに、これまでの第1次抵抗運動(1962—64年)や第2次抵抗運動(1990—96年)、そして第3次抵抗運動(2006—09年)にはみられなかったトゥアレグ人主体のジハード組織も登場した。アンサール・アッ=ディーン(Ansar ad-Din; Ansar Dine とも)と名のこの組織を率いるのが、本報告で取りあげるイヤド・アグ・ガリ(Iyad ag Ghaly)という人物である。彼はトゥアレグ抵抗運動の長期にわたる軍事的・政治的リーダーとして知られるだけでなく、サハラ地域での人質解放交渉の調停者としてしばしばその名がマスコミで報道される。また2013年2月26日付でアメリカ国務省よりテロリストに指定されている人物でもある¹。本報告では、この人物の行動を中心に、マリのこれまでのトゥアレグ抵抗運動をみていきたい。なお、付録として抵抗運動の諸組織の一覧を載せておく。

1. 抵抗運動の指導者

マリ東北部、キダル(Kidal)の町を中心とするイフォガス山(Adrar des Ifoghas)地域出身のトゥアレグ人、ガリ・アグ・ババカル(Ghali ag Babakar)を父²とするイヤドは、1953年ないし54年の生まれである³。その所属する部族はイラヤカン(Irayakan)で、階層意識が根強いトゥアレグの社会において貴族階級に属する。父は1962年からの第1次抵抗運動で死亡した。この抵抗運動の犠牲となった親をもつ子どもたちは「63年の子どもたち」とイフォガスでは呼ばれるが、イヤドはまさにそのひとりなのである。

彼の幼少時代の育ち方は不明であるが、サハラのこの地域は1970年代前半に大干魃に見舞われ、遊牧生活が困難になった。そのため多くのトゥアレグ人は職を求めて国内外に移動していった。イヤドも国を離れたひとりで、70年代後半にはリビアで生活していたことが確認されている⁴。マリやニジェールからマグレブ諸国に移動したトゥアレグの若者たちは、自分たちをイシュマル(ishumar)⁵と呼んだ。干魃で困難になったサハラでの伝統的

遊牧生活を断念し、ふるさとを離れての賃金労働を受け入れた人々である。彼らのなかで新しいトゥアレグの思想や文化が形成されていったとされる⁶。

1981年にはイシュマルとしてのイヤドほかトゥアレグの数百人の若者が、リビアで軍事訓練を受けはじめた。1982年には重火器や戦車の操縦などの訓練をシリアのキャンプで受けたのち、約200人から300人のトゥアレグの兵士はレバノンに派遣され、パレスチナ解放人民戦線（PFLP）の部隊に加わった。約半年後、同年の6月にイスラエルがレバノンに侵攻したことにより、パレスチナ解放機構（PLO）の本部はチュニスへの移転を余儀なくされた。同時にリビアからの援軍も引き上げるようになったが、この時の軍事経験がのちに貴重なものとなる。レバノンから帰還してからも、さらに1983年から1984年にかけて、今度はチャド紛争にリビアから傭兵として派遣されるなどし、さらに戦闘経験を深めた。これらはいずれも、将来のマリでの峰起を考え行なわれたもので、すでにこの頃から抵抗への準備を進めていたようである。

1990年、イヤドほか多くのトゥアレグ人がリビアからマリに戻る。トゥアレグの第2次抵抗運動は、この戻ってきた兵が中心の部隊による1990年6月のメナカ（Ménaka）にある憲兵隊への襲撃から始まる。戦略家として有能なイヤドに率いられ、レバノンやチャドでの戦闘経験を積んできた兵からなる反乱軍は、「アザワド⁷解放人民運動 Mouvement populaire de libération de l'Azawad (MPLA)」などを名のり、マリ軍に対し勝利を続けていく。約半年後の10月頃より和平協定の交渉が始まり、1991年1月には「タマンラセットの合意 Accords de Tamanrasset⁸」が結ばれた。これにより紛争はいったん終結の様相をみせる。この合意への反乱軍側の唯一の署名者が当時30歳代後半のMPLAの書記長イヤドであった。反乱軍の指揮官であるだけでなく、抵抗運動の政治的リーダーとして、イヤドの名はその後も記憶されていくことになる。

他方、運動の内部ではイヤドの穏健的かつトゥアレグの伝統的政治システムを重視する姿勢への反発が強まり、MPLAはイヤドが率いる穏健派の「アザワド人民運動 Mouvement populaire de l'Azawad (MPA)」、反イヤドで強硬派の「アザワド解放人民戦線 Front populaire de libération de l'Azawad (FPLA)」、同じく反イヤドではあるが穏健派の「アザワド解放革命軍 Armée révolutionnaire de libération de l'Azawad (ARLA)」、そしてアラビア語を話すベルベル系のビダン人 (Bidân) が中心の「アザワド・アラブ=イスラーム戦線 Front islamique arabe de l'Azawad (FIAA)」の4つの組織に分裂する（付録参照）。第2次トゥアレグ抵抗運動はこの後も運動内部での抗争などが1996年まで続くが、同年の3月にトンブクトゥ (Tonbouktou) で行なわれた「平和の炎」の儀式によりようやく終熄を迎えた⁹。

2. 変身

この後、イヤドはイスラーム信仰に進むことになる。1990年代の終わりにはキダルの町に、南アジアのイスラーム教団・タブリギ・ジャマート (Tablighi Jamaat) が布教に訪れた。トゥアレグの伝統的首長 (アメノカル *amenokal*) であるインタッラ・アグ・アッタヘル (Intalla ag Attaher) の2人の息子がこの布教団の教習を受けたほか、イヤドもこの原理主義的教団の教習に参加した¹⁰。『ジュンヌ・アフリック *Jeune Afrique*』誌によれば、この頃から彼は女性の手を握るのをやめ、妻にはベールを被らせ、自分はモスクに通うようになったそうだ¹¹。

2000年代になるとサハラで起こったさまざまな誘拐事件の調停者として、イヤドの名がマスコミに報じられるようになる。その最初は、2003年アルジェリアの「宣教と聖戦のためのサラフィスト集団 *Groupe salafiste pour la prédication et le combat (GSPC)*」がアルジェリアの砂漠地帯で32人のヨーロッパ人を誘拐した事件である。2003年の2月から3月にかけて誘拐された人質の約半数は5月にアルジェリアで救出されたが、残る14名はGSPCによってマリ北部に移された¹²。これら14名の人質の解放交渉の過程で、イヤドは頻繁にキダルにやってくるアルジェリアの情報機関員と接触していた。8月の人質の解放を伝えるアルジェリアの新聞は、イヤドが調停者であったと伝えている。キーナンによれば、このようなイスラームへの強い志向や親密な情報機関との関係は、かつての支持者や仲間からイヤドが多少とも信頼を失うきっかけとなった¹³。

2006年5月、イヤドはハッサン・アグ・ファガガ (Hassan ag Fagaga) やイブラヒム・アグ・バハンガ (Ibrahim ag Bahanga) らとともに峰起し、政府軍から大量の武器を奪うとともに、キダルを制圧した。その翌日「変革のための5月23日民主同盟 *Alliance démocratique du 23 mai pour le changement (ADC)*」が正式に結成され、イヤドは書記長についた。だが、この峰起はキダルの住民の支持を得られず、1ヵ月あまり後の7月4日にアルジェリアの仲介で「アルジェ合意 *Accord d'Alger*」を結んでいったん終結する。翌年3月、叛乱軍は「山を下り」武装解除した¹⁴。しかし紛争は、アルジェの合意を不満とするハッサン・アグ・ファガガらがADCから分離して結成した「ニジュール＝マリ・トゥアレグ同盟 *Alliance Touareg Niger-Mali (ATNM)*」により2009年まで続いていった。

2007年11月、当時の大統領アマドゥ・トゥマニ・トゥーレ (Amadou Toumani Touré) により、イヤドはサウジアラビアのジェッダにあるマリ領事館の参事官に任命された。大統領は慎重にイヤドを北部マリから遠ざけようとしたのだと、あるトゥアレグの首長は語っている。赴任したサウジアラビアで、イヤドはより過激なイスラーム主義に接近したと考えられ、2010年5月にはサウジアラビア当局より国外退去とされた¹⁵。

このイヤドの帰国直前の4月22日、ニジェール北部でフランス人ミッシェル・ジェルマノー (Michel Germaneau) が AQMI によって誘拐されるという事件が起こっている。犯行を行なったのはアブデルクリム・タレブ (Abdelkrim Taleb)、別名アブデルクリム・アッ・タルギ (Abdelkrim al-Targui) によるものと報道された¹⁶。その本名はハマダ・アグ・ハマ (Hamada ag Hama) で、マリ東北部アルジェリアとの国境近くのイン・ハリル (In Halil、El Khalil とも) 村出身の、実はイヤドのいとこだと後にわかった¹⁷。ハマダが率いる AQMI のアッ=アンサール (al-Ansar) 部隊は、この後も2011年11月に2人のフランス人をマリでホンボリ (Honbori) で誘拐するなど、数々の犯行を続けている。

3. アンサール・アッ=ディーンの指導者

2010年、イヤドはマリに戻ったが、その翌年の2011年にリビアのカダフィが倒される。カダフィの下でリビア軍に所属していた多くのトゥアレグの兵士は、その故国に戻るようになる。彼らは内戦の混乱下、軍が所持・保管していた大量の武器とともにマリに帰ってきた。これらのリビアからの帰還兵と、2010年からマリ北部で運動をしていた「アザワド民族運動 Mouvement national de l'Azawad (MNA)」および「北部マリ・トゥアレグ運動 Mouvement Touareg du Nord-Mali (MTNM)」が合流して組織されたのが「アザワド解放民族運動 Mouvement national de libération de l'Azawad (MNLA)」である。2011年10月16日に正式に結成されたこの組織は、マリからの分離独立を綱領とし、非宗教的であることを掲げた。組織にはキダル地域だけではなくアザワドの他の地域からも、マリ軍を辞職するなどした多くの第2次抵抗運動の経験者が加わった。

この新たな抵抗組織の設立に対し、もともと北部地域の自治のみを求める穏健派であり、かつ強硬なイスラーム主義者となったイヤドは、MNLAの指導者のポストを要求し、組織の統制を試みようとした。しかしその要求はにべもなく断わられた。そこでイヤドは2011年12月、自らイスラーム組織アンサール・アッ=ディーンを立ち上げ、自分の部族の若者たちなどをこの組織に加えた。組織の目的はトゥアレグの分離独立ではなく、マリ全土にシャリーアによる統治を推し進めることであるとされた。指導者イヤドの下にはナンバー2として、イフォガス地域の伝統的首長の息子、アルガバッス・アグ・インタッラ (Alghabasse ag Intalla) が参加した。

2012年1月、MNLAは峰起を開始し、マリ北部の町を順に攻略していった。この戦闘にはアンサール・アッ=ディーンも参加したほか、MUJAOやAQMIもアンサール・アッ=ディーンの側でマリ軍と戦っていたと報告されている。4月、北部全土を制圧したとしてMNLAはアザワドの独立と一方的休戦を宣言し、ガオ (Gao)、トンブクトゥ (Tombouctou)、

キダルなどの主要都市の統治をはじめようとした。まさにその時、アンサール・アッ＝ディーンらのイスラーム組織は MNLA に攻撃をかけ、これらの町の支配権を手に入れたのである。イスラーム組織の支配下におかれた町にはシャリーアによる支配が敷かれ、女性へのベール着用が強制されるなどした。

2013年1月10日、アンサール・アッ＝ディーンはマリ政府との間にできあがっていた暗黙の南北境界線を越えて、マリ南部に進行を開始し首都バマコをめざそうとした。しかし、フランス政府はマリ政府の支援の要請を受け、ただちにフランス軍の戦闘ヘリや戦闘爆撃機を投入し、このイスラーム組織の南部への進行を阻止した。フランス政府はこの作戦を「セルヴァル作戦 Opération Serval」と名づけた。続いてフランス軍は地上部隊を当初3000人以上展開し、4月までにマリ北部全体を回復した。

この間、アンサール・アッ＝ディーンのナンバー2であったアルガバッス・アグ・インタッラらが組織を離れ、組織は弱体化しはじめた。そして一度はアザワドの独立宣言まで至った MNLA による 2012 年の峰起も、その成果はほぼ水の泡と化したのである。

おわりに

イヤド・アグ・ガリは、フランス軍が介入し自らの組織が崩壊していくなか、表舞台には姿を現わさなくなった。2013年1月中旬以降のイヤドに関して、『ジュンヌ・アフリック』誌の記事を追っていくと、まず2013年1月22日付で「イヤドはどこにいるのか？」と、フランス軍相手の撤退戦の最中に彼が消息不明であることが伝えられた¹⁸。これ以降、しばらくの期間イヤドについての報道はメディアから消える。ところが10月、2010年9月にフランスの原子力会社アレバ (Areva) が運営するニジュールのウラン鉱山で拉致された4人のフランス人の解放が発表されると、それにイヤドが関与していたと報道がなされた。記事はさらにイヤドが人質の解放と引き替えとして、彼とその仲間のマリ政府からの訴追の免除を要求したと伝えた¹⁹。さらに12月、アルジェリアの情報機関が2012年に拉致されたアルジェリア人の人質の解放交渉のために、イヤドに接触しはじめたと報道された²⁰。2014年1月には、フランスの情報機関からとして、イヤドはマリとの国境にあるアルジェリアの南部の町ティンザウテン (Tinzaouten) に、家族とともに潜っていると伝えられている²¹。

【付録】トゥアレグ抵抗運動の諸組織

第2次抵抗運動（1990—96年）

- アザワド解放人民運動 Mouvement populaire de libération de l’Azawad; Popular Movement for the Liberation of Azawad (MPLA)

1980年代より存在していたトゥアレグ独立運動の組織である。90年6月の峰起以降から、外部向けにはこの組織名を使った。ほかに、「トゥアレグ解放運動 Mouvement de libération touareg (MLT)」や「アザワド解放人民戦線 Front populaire de libération d’Azawad (FPLA)」の名称も使われた。

- アザワド人民運動 Mouvement populaire de l’Azawad; Popular Movement of Azawad (MPA)

1991年1月のタマンラセット合意への交渉中に、イヤド・アグ・ガリによって結成された。アザワドの自治を求める穏健派であり、トゥアレグ部族内部の伝統的政治も支持した。トゥアレグのケル・アダッグ (Kel Adagh) 部族がそのメンバーの大部分を占めた。

- アザワド・アラブ=イスラーム戦線 Front islamique arabe de l’Azawad; Arab Islamic Front of Azawad (FIAA)

1991年1月のタマンラセット合意への交渉中に、アラブ=モール系の組織として結成された。

- アザワド解放人民戦線 Front populaire de libération de l’Azawad; Popular Liberation Front of Azawad (FPLA);

1991年1月のタマンラセット合意後に結成された。アザワドの独立を求める強行派であり、タマンラセット合意の無効を主張し、さらに部族の伝統的政治は否定した。ケル・アダッグ部族以外のトゥアレグがメンバーの大部分を占める。レバノンでの戦闘の経験のあるリサ・アグ・シディ・モハメド (Rhissa ag Sidi Mohamed) がリーダー。

- アザワド解放革命軍 Armée révolutionnaire de libération de l’Azawad ; Revolutionary Liberation Army of Azawad (ARLA)

タマンラセットの合意が結ばれたのちの1991年11月に結成された。自治を求める穏健派であるが、伝統的政治は否定した。ケル・アダッグ部族の中心を占めるイフォガス (Ifoghs) 族に反発し、MPA から分裂して結成された。

- アザワド運動連合 Mouvements et Fronts unifiés de l’Azawad ; United Movements and Fronts of Azawad (MFUA)

1991年12月、「国民協定」の交渉のために、すべての抵抗組織をまとめて結成された。

第3次抵抗運動 (2006—09年)

- 変革のための5月23日民主同盟 L’Alliance démocratique du 23 mai pour le changement; May 23, 2006 Democratic Alliance for Change (ADC)

2006年5月にイヤド・アグ・ガリやイブラヒム・アグ・バハンガ (Ibrahim ag Bahanga) らによって結成される。1990年代の第2次抵抗運動の際に結ばれた「国民協定」の実施を要求した。

- 変革のための北部マリ・トゥアレグ同盟 Alliance touareg du Nord-Mali pour le changement; North Mali Tuareg Alliance for Change (ATNMC)

2007年、「変革のためのニジェール＝マリ・トゥアレグ同盟 Alliance touareg Niger-Mali pour le changement」という名称でイブラヒム・アグ・バハンガらによってADCの一部により結成された。ニジェールでの抵抗運動との連携をめざしたが、その終熄とともに2008年「変革のための北部マリ・トゥアレグ同盟」に改称した。

第4次抵抗運動（2012年一）

- アザワド解放民族運動 Le Mouvement national de libération de l'Azawad、Le Mouvement national pour la libération de l'Azawad とも; National Movement for the Liberation of Azawad (MNLA)

2010年10月に正式に結成された「アザワド国民運動 Mouvement national de l'Azawad (MNA)」と、イブラヒム・アグ・バハンガ (Ibrahim ag Bahanga) の組織である ATNMC の2組織の融合により、2011年10月16日正式に結成される。(ただし、イブラヒム・アグ・バハンガは、結成以前の8月11日に〈交通事故〉で死亡している)。マリ東北部の独立をめざす政治=軍事組織で、非イスラーム主義である。主要なメンバーは以下のとおりである。

- 書記長：ビラル・アグ・アシェリフ (Bilal ag Acherif)。1977年生まれ。
 - 政治局長：モハメド・アグ・ガリ (Mohamed ag Ghali)。
 - スポークスマン：ハマ・アグ・シディ・モハメド (Hamma ag Sidi Mohamed)。
 - 参謀長：モハメド・アグ・ナジェム (Mohamed ag Najem)。1950年代後半にイフォガス地域で生まれる。イドナン (Idnane) 部族出身。
-
- アンサール・アッ=ディーン Ansar ad-Din、Ansar Dine とも

アラビア語で「信仰の擁護者」と名のるトゥアレグ人中心のイスラーム・ジハード組織。2011年末にイヤド・アグ・ガリ (Iyad ag Ghali) によって結成される。AQIM や MUJAO とも強い関係がある。2013年3月、アメリカ国務省によりテロリスト組織に指定された。イヤドに続くナンバー2はキダル地域の伝統的首長の息子であるアルガバツ・アグ・インタッラ (Alghabasse ag Intalla) であったが、2013年1月にアンサール・アッ=ディーンから離脱した。

- アザワド・アラブ運動 Mouvement arabe de l'Azawad; Arab Movement of Azawad (MAA)

2012年4月1日に結成された。結成時の名称は「アザワド民族解放戦線 Front de libération nationale de l'Azawad (FLNA)」であった。2012年末に現在の名称に変更した。アラブ系が

中心の組織で、2013年6月のワガドゥグ交渉に MNLA および HCUA とともに参加した。

- アザワド・イスラーム運動 Mouvement islamique de l'Azawad; Islamic Movement of Azawad (MIA)

フランス軍の侵攻後の2013年1月23日、アンサール・アッ=ディーンより分かれて結成された。書記長はアルガバッス・アグ・インタッラであった。2013年5月にアルガバッスは組織の解散を宣言し HCUA に加わると述べた。

- アザワド統一高等評議会 Haut conseil pour l'unité de l'Azawad; High Council for the Unity of Azawad (HCUA)

2013年5月2日結成し、同19日に「アザワド統一高等評議会 Haut conseil de l'Azawad (HCA)」から現在の名称に変更した。同日、MIA が合流した。イフォガス地域の貴族階層が中心メンバーである。アメノカル（伝統的首長）であるインタッラ・アグ・アッタハル (Intalla ag Attaher) が議長に就き、その息子モハメド・アグ・インタッラ (Mohamed ag Intalla) が書記長になった。モハメドはティン・エッサコ (Tin Essako) 県選出のマリ国会議員でもある。

- イスラーム・マグリブ諸国のアル=カイダ Al-Qaida au Maghreb islamique; Al-Qaeda in the Islamic Maghreb (AQMI)

2007年にアルジェリアの GSPC が改称してできたイスラーム過激派組織である。

- 西アフリカの唯一神とジハードのための運動 Mouvement pour l'unicité et le jihad en Afrique de l'Ouest; Movement for Oneness and Jihad in West Africa (MUJAO)

2011年12月に活動を開始した。モーリタニア人のハマダ・ウルド・モハメド・ヘイル (Hamada Ould Mohamed Kheirou) が AQIM から分かれて結成したイスラーム過激派組織である。

—注—

- ¹ <http://iipdigital.usembassy.gov/st/english/texttrans/2013/02/20130226143060.html>
- ² Pierre Boilly (1999). *Les Touaregs Kel Adagh : Dépendances et révoltes : du Soudan français au Mali contemporain*. Paris: Karthala. p. 328.
- ³ Baz Lecocq (2004). “Unemployed Intellectuals in the Sahara: The Teshumara Nationalist Movement and the Revolutions in Tuareg Society.” *International Review of Social History*, 49, p. 90.
- ⁴ 同上。49 ページにはリビアで撮影したとされる当時のイヤドの姿が掲載されている。
- ⁵ ishumar は男性複数形。ashumar (男・単)、tashamort (女・複)、tishimarin (女・単)。フランス語の chomeur (失業者) からの外来トゥアレグ語。「学歴のない知識人 (intellectuel populaire)」という含意がある。Baz Lecocq (2010). *Disputed Desert: Decolonization, Competing Nationalism and Tuareg Rebellions in Northern Mali*, London: Brill, p. 248.
- ⁶ イヤドはかつて世界的に有名なトゥアレグのバンドでイフォガ出身のティナリウエン (Tinariwen) のベーシストでもあった、との証言がある。Laurence Aïda Ammour, Shindouk Ould Najim et Jean-Luc Peduzzi, (2013). *Je reviendrai à Tombouctou: Un chef touaregs témoigne*. Ixelles éditions. p.138.
- ⁷ アザワド (Azawad) は「北部マリ」を指すトゥアレグ語由来の地名。
- ⁸ タマンラセットはアルジェリア南部の都市。タマンラセットの合意には、アルジェリアが仲介者として関与した。翌 1992 年 4 月にはマリの首都バマコで「国民協定 Pact national」が結ばれた。
- ⁹ 「平和の炎 la flamme de la paix」は平和のしるしとして、闘いで使用していた武器を燃やす儀式。1996 年 3 月 27 日に行われた。
- ¹⁰ Baz Lecocq, *Disputed Desert*. p.382.
- ¹¹ « Iyad Ag Ghali, rebelle dans l'âme », *Jeune Afrique*, 2012 年 10 月 2 日、2698 号、32-33 頁。
(<http://www.jeuneafrique.com/Articles/Dossier/JA2698p024-033.xml#11/mali-terrorisme-mouammar-kaddafi-mplamali-iyad-ag-ghali-rebelle-dans-l-ame.html>)
- ¹² 日本・アルジェリアセンター「サハラ砂漠で誘拐された欧州旅行者の解放」。
(http://www.japan-algeria-center.jp/news/jp/news20030829_jp.html)
- ¹³ Jeremy Keenan (2009). *The Dark Sahara: America's War on Terror in Africa*. London: Plute. p.72, p.222.
- ¹⁴ Baz Lecocq, *Disputed Desert*. pp. 390-397.
- ¹⁵ Laurence Aïda Ammour, Shindouk Ould Najim et Jean-Luc Peduzzi, *Je reviendrai à Tombouctou*. p.137.
- ¹⁶ 「タルギ」とは「トゥアレグ」を意味するアラビア語。
- ¹⁷ Jeremy Keenan (2013). *The Dying Sahara: US Imperialism and Terror in Africa*. London: Pluto. pp. 251-252.
- ¹⁸ « Mali : Où est passé Iyad Ag Ghali ? », *Jeune Afrique*, 2013 年 1 月 22 日、2715 号 9 頁。
(<http://www.jeuneafrique.com/Article/JA2715p008-009.xml#5>)
- ¹⁹ « Otages français : Iyad Ag Ghali, le chef d'Ansar Eddine, a-t-il négocié son impunité ? », *Jeune Afrique*, 2013 年 10 月 31 日。(WEB 版)
(<http://www.jeuneafrique.com/Article/ARTJAWEB20131031083417/>)
- ²⁰ « Mali : l'Algérie compte sur Iyad Ag Ghaly », *Jeune Afrique*, 2013 年 12 月 1 日、2760 号、10 頁。
(<http://www.jeuneafrique.com/Article/JA2760p010.xml#2/>)
- ²¹ « Sahel : Iyad Ag Ghaly en Algérie ? », *Jeune Afrique*, 2014 年 1 月 26 日、2768 号、8 頁。
(<http://www.jeuneafrique.com/Article/JA2768p008.xml#0/>)